

令和6年度中央アルプスにおけるライチョウ域内保全及び野生復帰個体の移送（案）

1. ライチョウのモニタリング及びケージ保護

(1) ライチョウのモニタリング

ライチョウのモニタリングについては4月末からのなわばり調査、巣探し調査、雛の生存率調査を実施する。雛のモニタリング調査は10月末までを想定する。麦草岳は令和5年度に登山者情報により繁殖が確認されたが、残雪期間中は駒ヶ岳方面からの調査が困難であることから直接調査は実施せず今年度同様登山者情報の収集を進める。

*令和6年度6月7日から20日までの2週間は中央アルプスロープウェイが運休予定。

(2) ケージ保護事業

実施期間：6月下旬から8月上旬まで

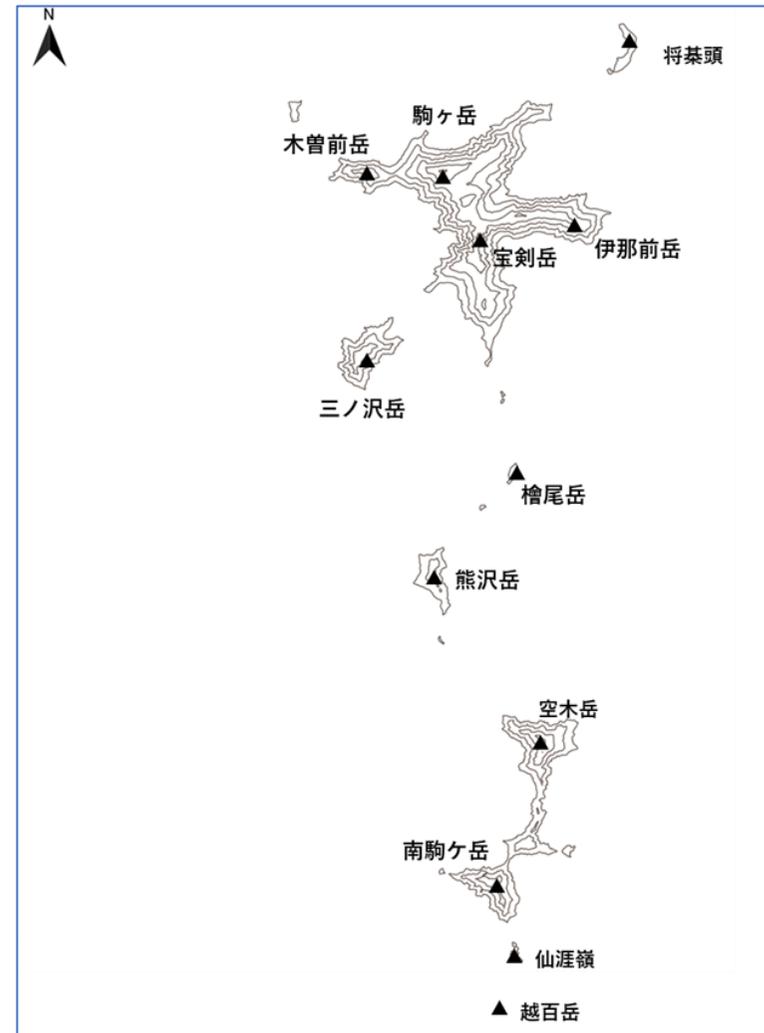
ケージ設置数：最大4個（頂上山荘4個）

保護家族数：1ヶ月程度保護することを目指す。場合によっては家族を入れ替えて5家族以上を保護することも検討する。

餌の供給：環境省が乗鞍岳から週1回程度クロウソゴの運搬を行なう。

1回の運搬量について70L発泡スチロール2箱程度を想定している（背負える量としても2箱が最大）。

野菜やペレット飼料についても高山植物使用量を抑えるためにも使用を継続する。



2. 捕食者等対策

(1) 捕食者のモニタリング調査

1) センサーカメラ調査

令和2年から継続的に実施しているセンサーカメラによる捕食動物モニタリング調査について継続して実施する。

北部地域 今年度並み（13基程度）のカメラの設置を予定

中南部地域 今年度並み（10基程度）。越百岳までなわばりが拡大していればカメラの増設（2個程度を予定）。

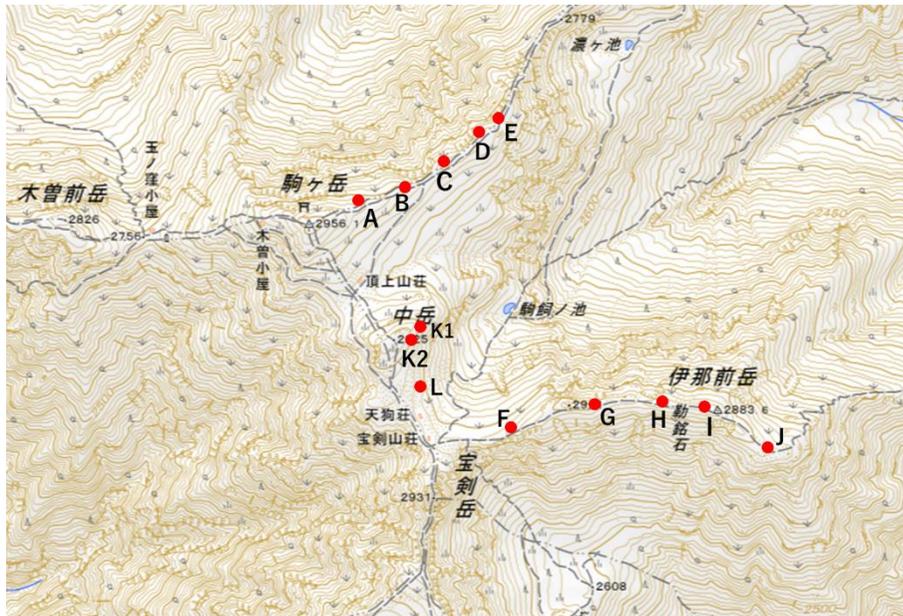


図1. 中央アルプス北部地域におけるセンサーカメラ設置位置

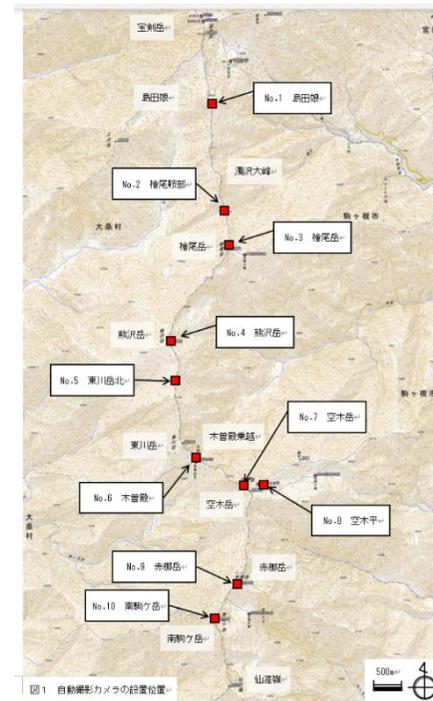


図2. 中央アルプス中南部地域におけるセンサーカメラ設置位置

設置位置及び罠の種類	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	3月
①宝剣山荘・頂上山荘								
かご罠			—————					
足はさみ罠		—————						
筒罠							—————	
③伊那前岳周辺								
かご罠			—————					
足はさみ罠		—————						
④西駒山荘								
かご罠			—————					
⑤檜尾小屋								
かご罠			—————					
⑥駒峰ヒュッテ								
かご罠			—————					

(3) 捕食者への発信機装着

高山帯を利用するライチョウの捕食動物の行動圏等を明らかにするため、捕獲されたキツネ1個体程度に発信機装着を検討する。これまで捕獲された捕食者を再び放獣することによるリスクから捕獲された個体への発信機装着は実施されてこなかったが、中央アルプスでは現在個体数が増加している事に加え、広域的な捕獲により放獣個体以外の個体を除去することにより放獣の影響を最小限に留める見込みがあるため実施する。

装着する発信機のタイプについては最終決定できていないが、発信機を再回収せずともデータ収集ができるタイプのものとする見込み。また、太陽光などで自家発電でき、長期間に渡りデータ取得できるものが好ましい。

(4) ニホンザルの追い払いについて

令和2年度以降のモニタリング調査の結果から、ニホンザルは中央アルプスの北部地域に集中して出現しており、中南部地域での出現は多くないことが明らかになっている。発信器を装着した群れも中南部の稜線付近までは移動しているものの、稜線の利用は少なかったこともこれまでの結果を支持する。そのため、ライチョウとニホンザルが遭遇する可能性が高いのは現在追い払いを実施している駒ヶ岳周辺地域に限られると考えられる。追い払い事業以後ニホンザルが高山帯に現れる頻度は追い払い開始後単純減少しているわけではないが、行動が変容していることが示唆されており、今後も駒ヶ岳周辺エリアでの追い払いについては実施する。追い払いについては昨年同様6月下旬から8月下旬までを想定し、環境省及び長野県が分担して事業実施を担当する。同時に、追い払い事業の周知に加え、登山者にも追い払い効果維持に協力してもらうための普及啓発を中央アルプス周辺で実施する。

3. 飼育個体の個体移送及び後期野生馴化について

(1) 移送時期及び移送方法

- 1) 移送時期：9月中旬
- 2) 移送方法：陸送（車、ロープウェー、徒歩）

3) 各園からの移送時間

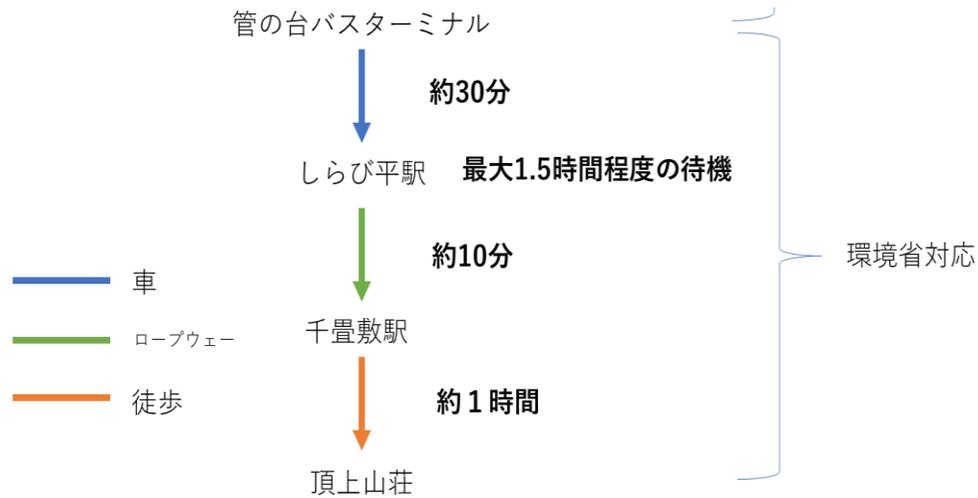
<移送の役割分担>

今年度同様に各園から菅ノ台バスターミナルまでは各園が移送を行う。

菅ノ台バスターミナルから頂上山荘までの移送については環境省が担当する。

<移送時間：各園～菅ノ台バスターミナル>

- 那須どうぶつ王国：5時間
- いしかわ動物園：4時間半
- 茶臼山動物園：2時間
- 大町山岳博物館：1時間半



<ロープウェイによるライチョウの運搬について>

ロープウェイによる移送に関しては令和5年度の移送に準ずる。ロープウェイによる個体移送については、営業時間中に利用者がいないタイミングでの移送を実施する。

登り利用者が少なくなる15時前後での移送を見込んでいるが、しらび平駅で最大1時間半程度の待機が発生する可能性がある。

(2) 移送箱

基本的に1個体毎に1つの移送用段ボールに入れる。写真は1家族を入れた際の写真であるため、右写真の半分程度の箱を用いる。段ボール内には保冷剤が入れられるポケットを用意し、徒歩の間も温度を低く保てるようにする。歩荷の際には1人が最大2個体を背負子に着けて運搬する(移送人員は5名を想定。)



(3) 移送個体の野外環境への馴化方法

移送個体についてはライチョウ家族用に使用している保護用ケージ（3.6m×1.8m×1.2m）に収容する。1つのケージに3個体程度を収容し、頂上山荘に最大4つのケージを設置して収容する。移送後はケージから出すことなく、1週間程度現地の餌や気候に慣した後放鳥する。給餌内容は基本的には中央アルプス現地にある植物や、飼育時に給餌していたペレット等を利用する。放鳥については個体の健康状態や採餌状況等を見て判断する。

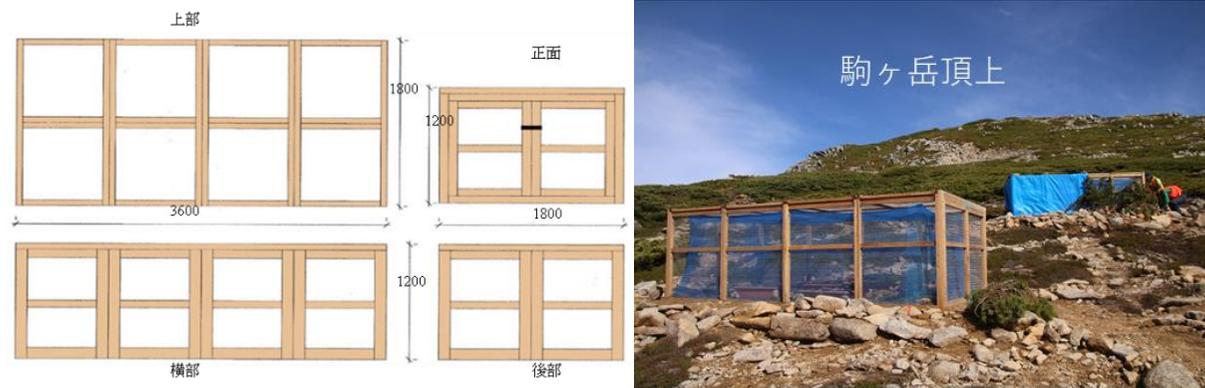


図1. 野生環境の馴化で使用するケージの寸法及び設置時の写真

(4) 天候判断

移送に当たっては、多少の悪天候であれば移送を実施するが1週間前、2日前及び1日前に天候判断を実施する。大きく天候が崩れることが予想される場合には移送日を変更する。